

## 第1回被爆二世臨床調査科学倫理委員会

日時： 2010年7月7日（水）14:00～17:00

場所：（財）放射線影響研究所 広島 講堂

〒 732-0815 広島市南区比治山公園5番2号

TEL： 082 (261) 3131 FAX：082 (263) 7279

### 議事次第

14:00 ～ 14:05	開会挨拶並びに委員紹介	大久保理事長
14:05 ～ 14:10	委員長の挨拶	島尾委員長
14:10 ～ 15:00	被爆二世臨床調査の目的と概要説明	藤原広島臨床研究部長 大石主任研究員
15:00 ～ 15:10	休憩	
15:10 ～ 16:10	質疑（科学面）	島尾委員長
16:10 ～ 16:50	質疑（倫理面）	武部副委員長
16:50 ～ 16:55	まとめ	島尾委員長
16:55 ～ 17:00	閉会挨拶	ショア副理事長

以上

# 被爆二世臨床調査科学倫理委員会メンバー

(五十音順・敬称略)

## 委員長

島尾 忠男 (財)結核予防会 顧問

## 副委員長

武部 啓 近畿大学原子力研究所 特別研究員

## 委員

上島 弘嗣 滋賀医科大学生活習慣病予防センター 特任教授 【欠席】

川本 隆史 東京大学大学院教育学研究科 教授

木村 晋介 木村晋介法律事務所 弁護士 【欠席】

スティーブ ウィング ノースカロライナ大学公衆衛生学部疫学科 准教授

田島 和雄 愛知県がんセンター 研究所長

朝長 万左男 日本赤十字社 長崎原爆病院 院長

土肥 博雄 日本赤十字社 広島赤十字・原爆病院 院長

丹羽 太貫 京都大学 名誉教授

野村 大成 大阪大学 名誉教授 【欠席】

早川 式彦 広島大学 名誉教授

振津 かつみ 兵庫医科大学 非常勤講師

丸山 英二 神戸大学大学院法学研究科 教授

## 「被爆二世臨床調査」について

(財)放射線影響研究所

被爆二世の方々を対象とする放射線の遺伝的影響調査としては、今日も死亡率およびがん発生率の追跡調査が行われていますが、健康診断による調査は2000年から7年間にわたり実施された生活習慣病の有病率調査が最初です。この調査は、放影研の調査研究のあり方について検討したブルーリボン委員会の勧告(1996年)を契機として計画されました。そして、成人期に発症する多因子疾患(高血圧、糖尿病、高コレステロール血症、心筋梗塞、狭心症、脳卒中)の有病率と親の放射線被曝との関連性の有無を調べることを目的として、アンケート調査と健康診断調査が実施されました。実施に際しては、この調査が被爆二世の方々に直接連絡する初めての調査であり、調査結果には被爆二世の方々の関心が高いであろうことをふまえ、放影研と被爆二世団体との間で、調査の実施に関する話し合いが行われ、1999年5月合意に達しました。

また、この調査では、計画段階から外部の専門家からなる諮問委員会を設置し、研究計画の科学的、倫理的妥当性を検証するとともに、調査の透明性を確保することに努めました。

広島・長崎の被爆二世をはじめとする24,673人を対象に調査への参加を呼びかけた結果、11,951人が健康診断調査に参加されました。調査結果は、2007年3月、被爆二世健康影響調査科学・倫理合同委員会「被爆二世健康影響調査報告」として公表しました。その結論の要旨は、「今回の調査で得られたデータの解析では、親の放射線被曝に関連した子供の多因子疾患を一括して見た場合に、リスクの増加を示す証拠は見られなかった」でありましたが、同時に、「今後、調査の対象となる方々の高齢化に伴って影響が見られる可能性は否定できないし、遺伝子解析研究技術の進歩などによってこれまでの調査項目に加えて新しい視点の導入が求められることも予測される」との意見が付加され、継続調査の必要性に関する提言をしております。

その後、日米両国の第三者委員で構成される放影研の将来構想に関する委員会が2008年6月に提出した、「放影研の将来構想に関する上級委員会報告書」においても、調査の継続を不可欠とする考え方が示されました。

これらの経緯を経て健康診断による被爆二世の継続調査として計画されたのが今回の「被爆二世臨床調査」です。その研究計画は、被爆二世臨床調査科学倫理委員会の審議を経て、決定されます。